

令和元 年度 第1回四万十市子ども・子育て会議 議事録

- 【日 時】 令和元年7月26日(火) 午後1時30分～午後3時30分
- 【場 所】 四万十市役所3階 防災対策室
- 【出席委員】 11名  
國久委員、武市委員、宮崎委員、刈谷委員、須山委員、岡委員、山沖委員、  
吉藤委員、福留委員、岡村委員、山崎委員
- 【欠席委員】 3名  
宮地委員、高松委員、宮本委員
- 【事務局】 5名  
子育て支援課 西澤課長、竹本補佐、田村保育係長、名本支援係長、  
阿部企画係長、今上企画係管理主幹

【要 旨】

1 開会

(1) 課長挨拶

子育て支援課長より挨拶。

(2) 各委員自己紹介

出席委員の自己紹介。

(3) 事務局紹介

事務局職員の自己紹介。

(4) 会議の成立

子ども・子育て会議条例第6条第2項に基づき会議の成立を報告。

2 議事等

(1) 会長及び副会長の選任について

- ・条例第6条では仮議長が議事の進行をすることになっているが、スムーズな進行のため事務局で進行することを提案。

～異議なし～

- ・会長の選任：自薦、他薦なし。前回会長の岡委員を会長に推薦する事務局案を提示。

～異議なし～

- ・副会長の選任：自薦、他薦なし。前回副会長の宮本委員を副会長に推薦する事務局案を提示。

～異議なし～

- ・子ども・子育て会議条例第6条第1項に基づき岡会長に進行を交代。

- ・会長挨拶

(2) 子ども・子育て支援事業計画について

①平成30年度の事業実績について

- ・本年度は今期計画の最終年度であり、今後の会議で大きな変更がない限り現計画の修正

は行わないこととしたい。現計画に現状では大きな修正点はない。

- ・事務局（各担当）より資料①に基づき実績の説明。資料①は市の子育てに関する子育て支援課の取組の他、計画に数的な目標値が示されている健康推進課の取組内容を抜粋したものとなっている。

## 【主な説明内容】

### <企画係>

- ・平成 30 年度は主に次期計画策定に向けた基礎調査などに関して、3 回の子ども・子育て会議を実施した。
- ・各事業の細かな部分を協議する場として子ども・子育て検討会を設置、3 回の検討会を実施した。
- ・ファミリーサポートセンター事業は、先ず援助会員を確保するため、講習会を実施した。
- ・出会いのきっかけづくり事業として、四万十市婚活サポーターに協力いただき、少人数引合わせを行う出会いサポート事業を開始した。1 組でも多くのカップルが出来るよう実施している。

### <支援係>

- ・主に児童手当等の給付事務、就学児童の放課後の居場所づくりをしている。
- ・平成 30 年度に具同小学校区の学童保育施設を整備した。
- ・児童館では色々なイベントを通して、地域や子どもとの関わりを目指して運営している。

### <保育係>

- ・四万十市内の公立だけでなく、認定こども園、地域型保育等の子どもの受け皿、入所定員の管理をしている。
- ・公立の川登保育所、本村保育所が平成 30 年度で休園。現在、公立保育所は 15 園となっている。
- ・平成 30 年度に川崎保育所を移転した。公立で 0 歳児を受け入れる初めての保育所となる。
- ・旧八束保育所、愛育園の 2 園のブロック塀を改修。市内の保育所にブロック塀の危険な箇所はない。
- ・平成 30 年 6 月から公立保育所を完全給食とした。

### <健康推進課>

- ・母子保健事業の実績報告。

## ■出された意見等

議長(会長)	婚活事業に関して、カップル成立数は結婚した数なのか。
事務局(企画係長)	イベントの中で参加者にどの人が良いか書かせており、うまくペアになることができた組数。成婚まではなかなか難しい。例年は少ないが、30 年度はかなり多い数字を出すことができた。 ～その他意見なし～

## ②令和元年度の事業予定について（資料②）

- ・事務局（各担当係長）より資料②に基づき事業予定の説明。

### 【主な説明内容】

#### <企画係>

- ・第2期子ども子育て支援事業計画の策定を行う。
- ・ファミリーサポートセンター事業を7月より開始。NPO法人に事業委託を行い、児童館内にセンターを開設している。依頼会員14名 援助会員23名 両方会員8名 計45名が登録済み。
- ・今後は援助会員を増やしながら積極的に保護者に会員登録を呼びかける。

#### <支援係>

- ・量的拡充を行う放課後児童健全育成事業を実施。昨年度に引き続き、市内7校の放課後児童クラブで児童1人あたり1.65㎡の面積を確保、中村南小に学童保育施設を建設する。

#### <保育係>

- ・おひさまはうすで認可化移行運営費支援事業を利用して2～3年で認可移行を目指す。
- ・愛育園・もみじ保育所の統合については、住民説明会、保護者との意見交換会を重ねており検討段階である。

### ※子育て支援課長より経過について補足説明

- ・平成30年10月頃からそれぞれの保育園のPTA役員と意見交換、12月以降はそれぞれの保護者に各4回、計8回の説明会を実施。本年度は5月に住民説明会、四万十市区長会の方にも説明をしている。
- ・民設民営という事では理解いただけない部分もあった。老朽化の問題があり、法定耐用年数は、もみじ保育所が後2年、愛育園は後8年位。計画自体は老朽化に合わせて2つの園を統合しようという事であったが、保護者の皆様に上手くお知らせができていなかった部分もあると思う。
- ・統合のタイミングで民設民営という方向になった。0～2歳の低年齢を民間、3歳以上を公立で保育していた。低年齢の保育が必要となってくるなかで、西土佐地区では民間団体の受け皿もなく、本年度から公立で0歳児を受け入れている。中村地域にも1歳から受け入れる公立保育所はあるが、0～5歳の一貫した保育は市内に公立、民間ともにない。
- ・昨年度末で17名の0歳児の待機児童の解消を考えており、統合して公立で0歳が出来ないか考えたが、10名以上の保育士の増員が必要となり、難しいだろうという事で、休日保育、特別保育などの提案も含め、民間にお願い出来る場所があるのではないかと考えた。統合保育所は公立ではなく、民設民営で進めていきたいと説明してきたところ。
- ・本年6月、「保護者の同意なく2つの統合園を民設民営にしない」という陳情が出てきた。市長との懇談も行ってきた。7月25日に四万十市子どもの未来を考える会から「統合については公立保育所で」と要望書が出ている。約6,300筆の署名で有効数は現在集計中。

市外の方もいるが、市長は大きい数字でもあり、一定意見を尊重したいと言っている。統合の方向性を見直しは必要ではないかと考えている。

- ・今後も引き続き両園の話し合いはしていくが、それぞれの方向性が少し違うことからなかなか難しく再検討が必要ではないかと考えている。最終的にはどういう方向で行くかは議会でも説明していくようになっており、8月1日にもみじ保育所で保護者説明会、8月には3つの常任委員会でも説明、報告をしていく。8月27日にもう一度住民説明会を開催する。そのような意見も踏まえながら最終決定をしていく。
- ・ただし、保護者の方からニーズのある低年齢児の保育について、県下で待機児があるのは高知、南国、四万十市の3市のみで、何とか解消すべきと言われている。民間の低年齢児は一杯であり、何らかの手立てを打たないといけない。低年齢児の保育やサービス向上に向けた特別保育などは公立でできるか、民設民営の方向性も含めた検討は続けていく必要はあるのではないかと考えており、まとめて議会やそれぞれの園にも報告をしていく。
- ・民間が良いか判断しにくい、このまま公立の2つの保育所を統合しても出来る保育所で0歳からは難しいと思う。
- ・公立を統合して2歳からの保育所を作るのか、民設民営にして0～5歳の一貫した保育、また、そこでできた公立の保育士で他の保育所で0～5歳の一貫した保育所が出来ないか、四万十市全体で公民問わずサービスの向上を図るため、このような計画をお願いしたところだが、署名や要望書が現在出ており、再検討という事になっている。
- ・このような方向性も踏まえ、見直しも進めていきたいという事でご了承いただきたい。

■出された意見等

委員	ファミリーサポートセンター事業は良い事業だと思うが、利用率はどのようになっているか。
事務局（企画係長）	ファミリーサポートセンター事業は現在会員数が少なく、7月からのスタートで実績は1件のみ。マッチングはどういう方に見てもらおうかの不安が多いので、ゆっくり時間をかけて納得して預けていただけるよう心掛けている。ペア数は5組。すぐに預けたいというより病児を預けたいという方が多く、取り敢えずの登録が多いのが現状。保育所等への強化をしていけば会員数は増えると思われる。
委員	統合の件は嘆願書が来たと言った。反対は統合に反対なのか、民設民営に反対なのか。
事務局（子育て支援課長）	<p>統合自体に反対はしていないと聞いている。当初より愛育園、もみじ保育所は両方が統合は了承しているが、民営に不安があるということ。ただ、それぞれスタンスが違ってきている。</p> <p>愛育園は市内で一番古い青年団立の保育所であるが、昭和初期に公立となった。継承してきた愛育園という名前に思い入れがある。もみじ保育所はかなり老朽しており雨漏りも酷い。保護者の皆さんでもみじ保育所がなくなった場合、どの保育所に移りたいかアンケートを取っているようだが、愛育園と回答した</p>

	<p>人はいなかったように聞いている。</p> <p>愛育園はもみじ保育所を愛育園に統合すれば良いという話があったが、もみじ保育所はそういうことではなく、民間であればどういったサービスが受けられるのか。愛育園は名前を残したいと言っており、もみじ保育所は新しい形になるとどのようになるのか、民間になったらどのようなサービス、どういう部分が変わってくるのか、加配についてもしっかりやってくれるのかなど教えて欲しいという事で当初から変わってきている。</p>
委員	<p>統合したら公立は0歳は出来ないと言った。なぜ出来ないのか。</p>
事務局（子育て支援課長）	<p>現在、2園とも2歳からの受け入れで、職員は13名となっている。統合して2～5歳児の4つにクラスを分けると13名では大変だろう。2歳児が24名で職員が4名、3歳が40名の定員で2名、4歳、5歳も40名定員で2名が必要となる。国の基準では0歳は3名に1人、1，2歳は6名に1人。四万十市は少し手厚く1歳では5人に1名にしている。低年齢は職員数が必要になる。0～2歳をそのままの人数でやるのは難しい。0歳で17名の待機児童がおり、3人に1人で21名にしても7名の職員が必要。公立で職員を新たに雇用するのは難しい。その分を民間でやっている、採用予定のある所に対してお願いできないか。13人の職員を中村地区で0～2歳に持って行けないかというところ。</p>
会長	<p>その他関連して何かないか。それぞれの保護者の気持ちもある。</p>
委員	<p>もみじ保育所の保護者からも色々聞く。愛育園を残してほしいという気持ちは良く解るが、ある日から民間批判に代わってきたのは、自分達を批判されているようで悲しい。そういう内容のビラがたくさん配られている。民間の保育所を見てもらえば解っていただける部分はあると思うが、矛先が違った方に進んでいるのではないかと強く感じた。</p> <p>この前の議会でも議員が民間保育園にと言っていたが、皆さんから選ばれて中立でないといけないのに民間批判のようなことを述べられている議員もいた。議会でそのように話すのであれば、保育しているところを見たとえで話してほしい。勉強不足ではないか。</p> <p>愛育園で先導している人が、自分が民間をいじめていると感じ、謝りたいと子どもを預けている託児所に話したと聞いた。経営面、職員が若いとか言っていたということで、ある施設の園長が声をかけ、財務諸表や職員の年齢も見せ、どうかと聞いたら、「愛育園を民間に任せても構わない。ただ四万十市のやり方が気に入らなくて抗議したかっただけ」ということで、呼んでも保育しているところは見ない。民間の施設長がある会の場で、署名も字が書ければ良いとか、政治の世界に子どもを引っ張りだすのはどうなのかという話になった。</p> <p>矛先が違っているのと民間批判というところで、保護者に不安を持たせていることをこの場で言わせていただきたい。</p>
会長	<p>民間の立場から貴重な意見を聞かせていただいた。ここでまとめるものでは</p>

	<p>なく不安など他に何かあれば。</p> <p>民間、公立を攻撃するというのは本来の目的からずれる。どちらにしても行政は色々な意見を組んでいただいて、これからの四万十市の子育てを考えてやってほしい。</p> <p style="text-align: center;">～その他意見なし～</p>
--	---

(3) 第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について

①ニーズ調査の結果について

事務局（企画係長）より調査結果について資料③の説明。

【主な説明内容】

- ・現在子どもの置かれている状況、環境を把握する質問が多く、計画を作っていく段階で課題への対策として次回の会議以降で触れていく。
- ・子育て環境、支援に関する満足度は平均 2.7 で5年前と同じ数値。結果を課題として重く受け止めている。

②今年度のスケジュールについて

事務局（企画係長）より計画策定スケジュールについて資料④の説明。

【主な説明内容】

- ・子ども子育て会議を年度内に4回実施予定。
- ・関係各課にヒアリングを行い、課題や反省点を洗い出し、次の計画の柱を作る。
- ・検討会も期間中に開催して、計画の内容を見ていただき意見をもらえればより良い計画になる。
- ・出来れば8P程度の概要版を作成したい。

(4) 保育料の無償化について

事務局（保育係長）より無償化について資料⑤の説明。

【主な説明内容】

- ・国の施策。条例や規則の改正をしているところ。
- ・HP、保護者全員に周知文書を配布する。各保育所等に内容を説明する。その際、提出文書についても説明したい。
- ・保育の必要性が認定されれば、ファミリーサポートセンター事業も対象になる。
- ・3～5歳までの副食費は現在保育料に入っており、10月以降保育料が無償になっても副食費は徴収することになる。

■出された意見等

会長	副食費についてはまだ決まっていないのか。
事務局（子育て支援課長）	国の方が1人あたり4,500円と言っている。この部分を有料か無料か市内部で検討した。県内では無料にするところもあるし、高知市、香美、香南市など大きいところはそのまま実費徴収という形。全て一般財源として市の持ち出しになる。金額については非課税世帯を除くと3600～3800万円。人口規模を合わせて、徴収せざるを得ないというところで概ねまとまってきている。本来なら出してあげたいが食事代なのでご了解いただきたい。公立保育所において、ご飯代を500円いただいている。公立保育で完全給食を出されている方については無償化と言っても5,000円は出していただくという事になる。
会長	ニーズ調査の子育て施策が十分でないというところで、このような部分がポイントになると思うが、財政との関係になる。 ～その他意見なし～

(5) 子ども子育て会議の協議結果の公表について

事務局（企画係長）より資料⑥を基に説明。

【主な説明内容】

- ・今まで協議結果を公表していないが、子育て施策について市民の関心が高まっている。
- ・保育所問題などもあり、子ども・子育て会議でどんな話し合いをして決定しているのか知りたいという声をよく聞く。
- ・今後体制が整えば協議結果を公表していくのはどうかと考えている。
- ・県内では4市が公表している。
- ・発言委員名を明記しているところもあれば、記載していない市もある。

■出された意見等

会長	他の市もあまりやっていないという事だが。 固有名詞が出るかどうかによって自分の意見を言いにくいのであれば会の趣旨が違ってくる。部外で発言を問われることはルール違反。 固有名詞は載せないで委員、事務局のみの記載という事でよろしいか。何か意見はないか。
委員	公表、公開についてはこんなご時世なので良いと思うが、この委員がこんな意見を発言したというのは公表、公開する必要性も理由もない。制限をかけて頂かないと発言もしにくくより良いものになりにくい。
会長	公表については賛成するという事でよろしいか。
事務局（子育て支援課長）	議事録をそのまま出しても要点が捉えにくい。会長に見ていただいて要点筆記と議事録という2点の形で公表させていただいてよろしいか。

会長	そのような形で良いか。 ～異議なし～
----	-----------------------

(6) その他

- ・資料⑤下方に掲載、民設民営保育所建設の説明会を実施する。委員には別途お知らせする。

3 閉会

その他意見なく閉会となる。